

神戸市室内合奏団

定期演奏会

音楽は言葉

～それぞれの時代から 作品たちが語りかける～

神戸市演奏協会 第400回公演



神戸市室内合奏団
Kobe City Chamber Orchestra



1981年、神戸市によって設立された神戸市室内合奏団は、実力派の弦楽器奏者たちによって組織され、神戸、大阪、東京などを中心に、質の高いアンサンブル活動を30数年に亘って展開している。弦楽合奏を主体としながらも、管楽器群を加えた室内管弦楽団としての活動も活発で、バロックから近現代までの幅広い演奏レパートリーのほか、埋もれた興味深い作品も意欲的に取り上げてきた。また、定期演奏会以外にもクラシック音楽普及のための様々な公演活動を精力的に行っている。

1998年、巨匠ゲルハルト・ボッセを音楽監督に迎えてからの14年間で、演奏能力並びに芸術的水準は飛躍的な発展を遂げ、日本を代表する室内合奏団へと成長した。毎年のシーズンプログラムは充実した内容の魅力あふれる選曲で各方面からの注目を集め、説得力ある演奏は高い評価を受けている。

内外の第一線で活躍するソリストたちとの共演も多く、2011年3月の定期演奏会でのボッセ指揮によるJ.S.バッハ「ブランデンブルク協奏曲全6曲」の名演はCDとしてリリースされている。また、2011年9月にはドイツのヴェストファーレンクラシックスからの招聘を受けてドイツ公演を行い、大成功を収めている。2013年度からは、日本のアンサンブル界を牽引する岡山潔が音楽監督に就任し、ボッセ前音楽監督の高い理念を引き継ぎ、合奏団のさらなる音楽的発展を目指して、新たな活動を開始した。

<プロフィール>

白井 圭
Kei Shirai



東京藝術大学附属音楽高等学校を経て、同大学を卒業。日本音楽コンクール第2位及び増沢賞受賞。2007年より文化庁海外派遣員としてウィーン音楽演劇大学に留学。ARDミュンヘン国際音楽コンクール第2位及び聴衆賞受賞。ウィーン国立歌劇場の契約団員を半年間務める一方、ソリストとして、数々のリサイタルや、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団や新日本フィルハーモニー交響楽団など内外のオーケストラと共演。田中千香土レボリューションアンサンブル音楽監督・指揮者。2013年度より神戸市室内合奏団コンサートマスター。

2014年度 定期演奏会

音楽は言葉

それぞれの時代から作品たちが語りかける…

■2014年12月5日(金) 19:00開演 神戸新聞 松方ホール
ハープ独奏:西山まりえ/コンサートマスター:白井圭

「バロックから古典派への転換期 オーストリアでは」
G.Ch.ヴァーゲンザイル ハープ協奏曲 へ長調 W V 281
F. J.ハイドン 交響曲 第6番 二長調 「朝」 Hob. I : 6 ほか

■2015年3月11日(水) 19:00開演 神戸文化ホール 中ホール
14日(土) 14:00開演 紀尾井ホール(東京)
ヴァイオリン独奏:岡山 潔/指揮:石川 星太郎

「ドイツロマン派の響き シューマン、苦悩を越えて」
R.シューマン ヴァイオリン協奏曲 二短調 WoO 23
交響曲 第2番 八長調 Op.61 ほか

<プログラム>

レオシュ・ヤナーチェク

LEOŠ JANÁČEK

- I. Moderato
- II. Adagio
- III. Andante con moto
- IV. Presto
- V. Adagio
- VI. Andante

弦楽の為の組曲 JW VI-2

Suite for String Orchestra JW VI-2

ベーラ・バルトーク

BARTÓK BÉLA

- I. Allegro non troppo
- II. Molto adagio
- III. Allego assai

弦楽の為のディヴェルティメント Sz.113

Divertimento for String Orchestra Sz.113

<休 憩>

アントニン・ドヴォルジャーク

ANTONÍN DVOŘÁK

- I. Moderato
- II. Tempo di Valse
- III. SCHERZO : Vivace
- IV. Larghetto
- V. FINALE : Allegro vivace

セレナーデ ホ長調 Op.22, B.52

Serenade Op.22, B.52



